

豊かな体験活動における推進体制作り
～関係機関・団体との連携と支援の仕組みづくり～
美祢市立伊佐小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

○学級数：8学級 ○児童数：159人 ○教職員数：17人

○活動の対象学年：5年生 19人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

美祢市は山口県中西部に位置し、伊佐は観光地秋吉台カルスト地帯に連なる山あいの町である。豊富に産出する石灰岩を加工利用する工場が校区内にあり、町の中では、その工場の高い煙突と採掘場がとても目を引く。

近年の少子化や過疎化の流れで本校も、1学年2クラスから1学年1クラスへ児童数が減少してきている。1学年の人数が20名前後の学年もあり、固定化した人間関係の中に、プラス面ばかりでなくマイナス面も見られるようになってきた。

市内を流れる厚狭川、伊佐川に沿うように田畑が広がり、周囲を豊かな森林に囲まれた盆地である。初冬には、しばしば深い朝霧に包まれる。比較的自然環境に恵まれてはいるが、実際に生活している児童と自然との関係は希薄である。身近に農作業は見ても、実際にそれを体験したことはないし、周囲の山や川で自由に遊ぶ姿はほとんど見られない。グラウンドや体育館を利用したスポーツを習っている児童は多い。

③ 連絡先

○〒759-2222 美祢市伊佐町1の牛明4454

○電 話：0837-52-0028

○F A X：0837-52-0254

○ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/isasho/>

○電子メール：isa-e@nifty.com

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

○豊かで美しい自然環境の中で集団宿泊活動を行い、集団生活におけるルールの大切さを実感させ、集団の中で自分の責任と役割を果たす喜びと大切さに気付かせる。

○便利な日常の生活を離れ、不便な生活環境の中で、自分たちが工夫したり、困難を克服したりして、やり遂げることにより、恵まれた日々の生活や家族へ感謝する心やたくましさを育む機会とする。

○宿泊する地域の特色を生かした活動を行い、その地域についての理解を深めるとともに、地域ボランティア・青少年教育施設・活動支援ボランティア等各関係の方々など様々な立場の人々とのかかわりの中でコミュニケーション能力を高める。

② 活動内容と教育課程上の位置づけ

○ボランティアなど社会奉仕にかかわる体験活動
(総合的な学習の時間 6時間)

○自然にかかわる体験活動
(特別活動 13時間、理科 2時間)

○文化や芸術にかかわる体験活動
(総合的な学習の時間 1時間)

○複合した体験活動
(社会 6時間、特別活動 13時間
総合的な学習の時間 1時間
家庭科 5時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 長期にわたり集団宿泊活動を実施し、集団生活におけるルールの大切さを実感させ、集団の中で自分の責任と役割を果たす喜びと大切さに気づかせる。
- ② 便利な日常の生活を離れ、不便な生活環境の中で、日ごろできないことを体験する。そして、自分たちが創意工夫しながら困難を克服し、やり遂げることにより、恵まれた日々の生活や家族へ感謝する心やたくましさを育む機会とする。
- ③ 班付きボランティア・青少年教育施設・活動支援ボランティア等各関係の方々など様々な立場の人々とのかかわりの中でコミュニケーション能力を高める。

(2) 全体の指導計画

①実施学年：第5学年19人

②活動の名称、活動内容、教育課程上の位置づけ、期間

自然教室：前期（1泊2日） 5月31日（木）～ 6月 1日（金）

自然教室：中期（2泊3日） 8月 1日（水）～ 8月 3日（金）

自然教室：後期（1泊2日） 11月 1日（木）～ 11月 2日（金）

※ 計画では自然教室：中期は2泊3日であったが、台風のため1泊2日に変更となった。

期 日	活動内容	教育課程上の位置づけ	活動時間	期 日	活動内容	教育課程上の位置づけ	活動時間
5月 29日 30日	宿泊地に関する学習 グループ作り、計画 事前準備	社会科 特別活動 特別活動	2時間 2時間 1時間	8月 2日	シーカヤック体験 ボランティア活動	特別活動 総合的な学習の時間	4時間 2時間
				※台風接近の為 3日目は中止			
5月 31日	オリエンテーション 市内ウォークラリー 天体観察	特別活動 特別活動 理科	1時間 3時間 2時間	10月 28日	宿泊地に関する学習 グループ作り、計画	社会科 特別活動	2時間 2時間
6月 1日	夏みかんジュース作り 博物館見学 ボランティア活動	家庭科 総合的な学習の時間 総合的な学習の時間	2時間 1時間 2時間	11月 1日	オリエンテーション オリエンテーリング ナイトウォーク	特別活動 特別活動 特別活動	1時間 3時間 1時間
7月 11日	宿泊地に関する学習 グループ作り、計画	社会科 特別活動	2時間 2時間	11月 2日	ボランティア活動 ハイキング 洞くつ探検	総合的な学習の時間 特別活動 特別活動	2時間 2時間 3時間
8月 1日	オリエンテーション 野外炊事	特別活動 家庭科	1時間 3時間	2月 29日	大学生との 交流会	総合的な学習の時間	1時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

- ① 参観日を利用し保護者、児童合同の説明会を開催。（事業の趣旨説明、日程説明、準備物の説明等を行う）

- ② 保護者を対象とした児童の健康面、精神面のアンケート調査実施。
- ③ 保護者へ万が一の緊急時の対応について説明し、研修期間中の保護者の連絡先を確認。
- ④ 保護者から児童へあてた手紙文の依頼

(2) 活動の展開

期日	活動内容	概要
5 月 31 日	萩焼き体験・星空体験 	入所式、オリエンテーションを実施後萩市内ウォークラリー実施。参加児童はみな熱心に活動に取り組んだ。すべての班が設定時間にあわせゴールすることができた。天体観察を萩博物館で実施。曇り空で星空を満喫することはできなかったが、講師の先生のお話は大変興味深く、児童には天体に興味を持つ、よいきっかけとなったようだ。
6 月 1 日	夏みかんジュースづくり 	予定されていた座禅体験が指導者の都合でできなくなったので、所内に植えてある夏みかんの実を使って、ジュースをつくることになった。味もよく、大変楽しい活動となった。 奉仕作業として施設内の清掃作業を実施。作業後、徒歩で萩市博物館へ移動し、見学をおこなった。貝の採集活動を意欲的に活動した。
8 月 1 日	野外炊事 	15時より野外炊事実施した。児童はみな熱心に活動に取り組んだ。ほぼ予定時刻に夕食をとることができた。児童は自力で完成させたカレーライスをおいしそうにほおぼっていた。後始末を徹底的にきれいになるまで行った。所員による点検は大変厳しかったが、研修生にとってよい体験になった。
2 日	シーカヤック 	2日の夜半すぎに台風の直撃を受ける状態になってしまったので、予定を変更し、午前中のみシーカヤック体験とした。艇を片付けて、少しすると、波や風が急激に強くなった。午前中は、たいへん充実した活動となった。ボランティア活動として青年の家の清掃活動を実施した。
11 月 1 日	オリエンテーリング 	大学生ボランティアと結団式を行い、広大な秋吉台でオリエンテーリングを行った。児童は額に汗を光らせて活動し、秋吉台を楽しんだ様子であった。夜の活動は北山へのナイトハイクを実施した。美しい夕日やすばらしい星空を満喫できた。昼はオリエンテーリング、夜は登山をしたので、疲労度が高く、児童は早めの消灯とした。
2 日	洞くつ探検 	自然の家の清掃活動を済ませ、ハイキングで景清洞へ移動した。途中、秋の野草を観察しながら進んだ。景清洞ではヘルメットとランプを使い、探検コースを探索した。ライトの明かりに浮かび上がる自然が創りだした造形にみな感嘆の声を上げていた。大変思い出深い活動になった。

(3) 事後指導

- ① 宿泊学習の振り返りを行い、班ごとに大判用紙の壁新聞を作成する。
- ② お世話になった青少年教育施設の方や大学生ボランティアの方へのお礼の手紙を書く。

③ 学習発表会で、全校児童、保護者、地域の方々へ宿泊学習の様子や感想等を発表する。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会

山口青年の家ネット萩青年の家スタッフ4名・油谷青年の家スタッフ4名・秋吉台少年自然の家スタッフ1名・山口大学学生6名・学校関係者5名から構成した。

(2) 配慮事項等

- ・それぞれ施設利用に当たっての事前打合せ実施
- ・それぞれの活動場所の事前踏査
(安全確認、緊急避難場所等の確保病気やけがなどの緊急時の対応策等)
- ・生活面のサポートなどボランティアスタッフの確保
(各班にボランティアスタッフを班付きのリーダーとして配置)
- ・宿泊施設、関係機関、団体との効果的な連携のあり方

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

体験活動終了後に児童対象のアンケート調査を実施。自己評価や意識調査、感想、改善点等の調査を実施し、集計結果をグラフ化することで全体的な傾向を把握することができた。

事後の指導の中で、教科学習や総合的な学習の時間を活用し、新聞や手紙等を作成させたり、学習発表会で地域や保護者の方々に向け、発表させたりした。その作品や発表の様子を総合的に評価することとした。

学生ボランティア・引率者は、期間中毎晩1日の活動を振り返る時間を設けた。それぞれの立場での率直な意見交換を行うことができ、指導の改善や意思の疎通・共通理解を図る場として大変効果的であった。

引率者の役割分担を明確にすることが、児童の活動観察の充実にもつながった。各班に学生ボランティアを班付きのリーダーとして配置し、その役割を明確にしていたので、他の引率者や担任は全体的な指導や観察が可能となった。また、少人数グループ毎に学生ボランティアがつくことができたので、宿泊期間中の事故やけがの発生がまったくなかった。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

日常と異なった環境の中で、集団生活を行ったり、様々な立場の人々とかかわったりすることは児童のコミュニケーション能力を高める上で有効であり、恵まれた日々の生活や家族へ感謝する心やたくましさを育む機会となる。学校としては、学生ボランティアのお陰で充実した研修になったのだが、学生ボランティアにとってもやりがいがあった。参加者全員から「またこのような機会があれば是非参加したい」と答えていただけた。後日、学生と児童の交流会が行われた。

(2) 課題

- ・長期宿泊研修を実施する上での保護者への経済的負担の問題。
- ・青少年教育施設の予約と学校行事、教育課程のすり合わせ・調整（希望する日には、なかなか入所できない。）